三重のれきし資料集！

写真提供:奈良文化財研究所

DVDダイジェスト

DVD『三重のれきし発掘隊！』
平成28～30年度制作
県内全小学校配布

DVD『三重の古墳』平成26年度制作

詳細はDVDに掲載！

先生方へ

私たちのふるさと三重県には、およそ14,000か所の遺跡があります。

三重県埋蔵文化財センターでは、これまで『三重のれきし発掘隊！』をはじめとして、三重県の遺跡を紹介するDVDを制作してきました。この冊子は、DVDに掲載されている文化財を中心に、教材として使える「三重の宝」を資料集にまとめたものです。歴史学習・地域学習等にご活用ください。

歴史を学ぶ児童の興味・関心を高める一助となれば幸いです。

三重県埋蔵文化財センター

三重のれきし発掘隊！

旧石器時代
縄文時代
弥生時代

【DVD収録時間（映像約33分）】

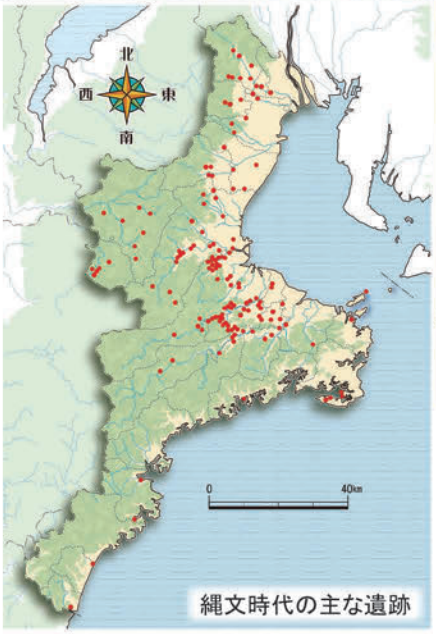
1　旧石器時代・縄文時代 ……▶ 14分
2　弥生時代 ……▶ 15分
3　発掘調査ってなんだろう？ ……▶ 4分

三重の旧石器時代

狩りに使った石器（山崎遺跡：度会町）

日本列島に人々が暮らし始めた旧石器時代は氷河期の終わりごろです。日本列島は大陸と陸続きになったり、せまい海峡でへだてられたりする時期でした。気温は今よりも低く、人々は石器を使って、大陸からやってきたマンモスやナウマンゾウ、オオツノジカといった大きな獲物を狩り、食料としていました。

三重の縄文時代



縄文時代の主な遺跡

縄文時代の生活（想像図）

寒い時期が終わり、暖かい気候になった時代を縄文時代といいます。縄文時代は、1万年以上続きました。

地図の赤い丸印は、縄文時代の主な遺跡を示しています。県内には、縄文時代の遺跡が1,000か所以上あります。平野や、山沿いのあたりに人々が住んでいたことがわかります。

野添大辻遺跡（大紀町）

宮川沿いにある野添大辻遺跡

竪穴住居の跡（野添大辻遺跡）

野添大辻遺跡は、宮川沿いの山の中にあります。発掘調査をしたところ、縄文時代初めごろの暮らしの跡が見つかりました。

左の写真の丸いくぼみは竪穴住居の跡です。くぼみの縁に沿って穴が並んでいます。この穴に柱を立て、葦などの植物で屋根を覆っていました。

下の写真の穴は、縄文時代の炉の跡です。穴はトンネルになっていて、周りが赤く焼けています。

縄文時代の人々は、この穴を使って、魚や肉を燻製にしていたと考えられています。（右の図）

炉の跡（野添大辻遺跡）

穴を使って燻製を作っているところ（想像図）

小牧南遺跡（四日市市）

小牧南遺跡には、縄文時代のムラがありました。竪穴住居の中には、石で囲った炉がありました。石の表面が赤く焼けています。

ほかにも、縄文土器を使って煮炊きをした跡がありました。土器が発明されたことで、人々は煮炊きをすることができるようになったのです。

竪穴住居の跡（小牧南遺跡）

縄文土器を使った炉の跡（小牧南遺跡）

石で囲った炉の跡（小牧南遺跡）

縄文時代の食事（復元）

縄文時代の食事を復元したものです。深鉢を使った煮物には、魚、鳥の肉、わかめ、山の芋が入っています。

浅鉢には、アサリのむき身、クリ、クルミを干したもの、ドングリなどをすりつぶして作った縄文時代のクッキーが盛り付けられています。

浅鉢に盛った食事

上から見たところ

深鉢を使った煮物

縄文土器　深鉢
（東庄内Ａ遺跡:鈴鹿市、大石遺跡:津市、薮ノ下遺跡:松阪市）

縄文土器

縄文土器片
（大鼻遺跡：亀山市）

縄文土器片
（新徳寺遺跡：多気町）

縄文土器（新徳寺遺跡：多気町）

県内各地で見つかった縄文土器です。粗い土を使って、分厚くつくられています。深鉢は、食べ物を煮炊きするのに使われました。

表面に縄目の模様がついているので、「縄文土器」と呼ばれますが、大鼻遺跡から見つかった土器のように、凸凹のついた棒を押し当てて模様をつけたものも縄文土器です。

石　器

打製石器は石を打ち欠いてつくったもので、矢じりやナイフなど、使い方によって色々な形があります。

矢じりは矢の先につけ、鹿やうさぎなどを狩るのに使いました。ナイフは、肉を切ったり、皮をはいだりするのに使いました。

石器には、木の実などをすりつぶすのに使う石皿や磨石などがありました。

縄文時代の石器（粥見井尻遺跡）

土偶とまつり（天白遺跡：松阪市）

中村川近くの天白遺跡

踊る土偶（天白遺跡）
県指定文化財

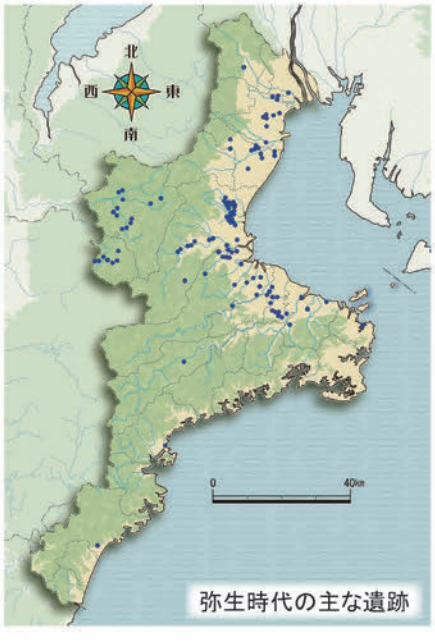
まつりの場（天白遺跡）

天白遺跡は、松阪市北部を流れる中村川のそばにあります。この遺跡からは、土偶がたくさん見つかっています。写真の土偶は、踊っているように見えませんか。土偶には、たくさん子どもが生まれてきてほしいとか、食べ物が豊富に手に入るように、といった願いが込められていたと考えられます。

左の写真では、円く並べられた石が広い範囲にいくつも見られます。まつりや祈りの広場であったのではないかといわれています。

三重の弥生時代

弥生時代の生活（想像図）



弥生時代の主な遺跡

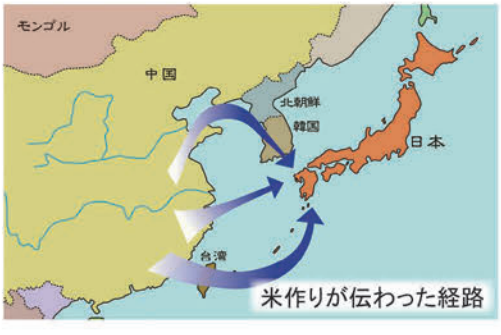
縄文時代の次の時代を弥生時代といいます。弥生時代は300年以上続いたとされています。

縄文時代に比べて、住む場所や使っている道具などが大きく違っています。

地図の青い丸印は、弥生時代の主な遺跡を示しています。県内には、弥生時代の遺跡が約1,100か所もあります。

米作りの始まり

森山東遺跡は、安濃川が流れる平野にあります。ここから、弥生時代の水田の跡が見つかりました。きれいに土地を区切って整理されていたことがわかります。一区画の大きさは今の田んぼより小さくなっています。



米作りが伝わった経路

堰の跡（蔵田遺跡：津市）
写真提供：津市教育委員会

森山東遺跡のすぐ近くにある蔵田遺跡では、水路に木の板がたくさん打ち込まれているのが見つかりました。これは、川の水を田んぼに引くための施設でした。

水田の跡（森山東遺跡：津市）

西上空から見た納所遺跡

納所遺跡（津市）

弥生土器（納所遺跡）

納所遺跡は、安濃川沿いの平地にあります。森山東遺跡や蔵田遺跡もすぐ近くです。納所遺跡は、この辺りで最も大きな弥生時代のムラでした。

発掘調査では、弥生土器のほか、田んぼや畑を掘り起こしたり、耕したりする木製の農具がたくさん見つかりました。

弥生時代の人々は、下の写真（再現）のようにして、田んぼを耕し、米を作っていました。

木製の農具（納所遺跡）

農具を使っている様子（想像）

米と弥生時代の食事（復元）

実った稲を刈るには、石包丁が使われました。石包丁は、半月形の薄い石に刃をつけ、紐を通すための穴が開いています。

この紐に指をかけて握り、実った稲の穂の部分だけを一つ一つ刈り取っていました。

「弥生時代のお米」は、当時の人が食べていたお米を現代の人が作ったものです。右の黄色いものは脱穀をする前、左の赤いものは脱穀をした後のお米です。当時の人は赤いお米「赤米」を食べていました。

石包丁（片野遺跡：津市）と稲を刈る様子（想像図）

弥生時代のお米

弥生時代の食事

左は、弥生時代の食事を復元したものです。右の高杯に盛られているものは赤米です。左の甕には、ハマグリとイイダコの煮物が作ってあります。

縄文時代と弥生時代を比べてみよう

縄文時代の生活（想像図）

弥生時代の生活（想像図）

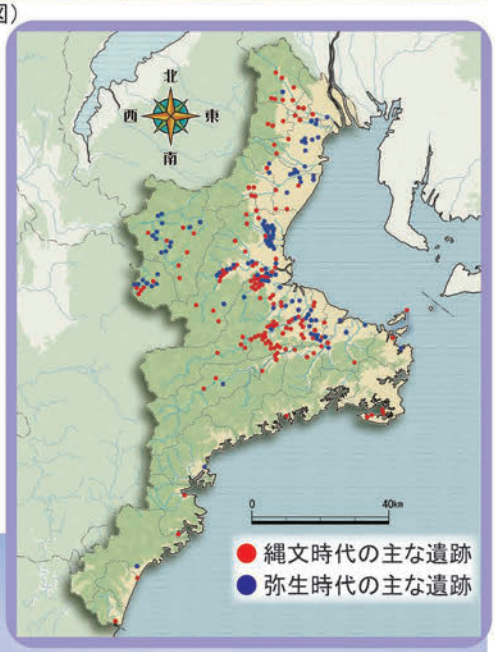
上の２つの絵を比べてみると、縄文時代と弥生時代では、人々の暮らしや道具が大きく変わったことが分かります。でも、変わらずに続いていることもあります。

右の地図の赤い丸印と青い丸印を比べてみると、人々が住んでいた場所も大きく変化したことがわかります。空から見た２つの遺跡の写真で比べてみましょう。

天白遺跡（縄文時代）は川の中流に立地しています。山や川では狩りや漁がしやすそうです。木の実も採れたことでしょう。

納所遺跡（弥生時代）は川の下流の平地に立地しています。田んぼをつくり、水を引くのに便利です。

縄文土器と弥生土器を並べてみると、ずいぶんと形が違うことがわかります。弥生時代になると、煮炊き用以外に保存用、盛り付け用など使う目的が違っていました。



北上空から見た天白遺跡（松阪市）

西上空から見た納所遺跡（津市）

縄文土器

弥生土器（納所遺跡）

（東庄内Ａ遺跡：鈴鹿市、大石遺跡：津市、薮ノ下遺跡：松阪市）

三重のれきし発掘隊！

古墳時代
飛鳥・奈良時代
平安時代

【DVD収録時間（映像約23分）】

1　古墳時代 ----------▶ 9分
2　飛鳥時代・奈良時代 ----------▶ 8分
3　平安時代 ----------▶ 3分
4　発掘調査員のしごと ----------▶ 3分

三重の古墳時代

宝塚1号墳（松阪市）

宝塚1号墳　国史跡
写真提供：松阪市教育委員会

宝塚1号墳は、全長111mもある伊勢平野最大の前方後円墳です。見上げると小山のようです。左手が前方部、右手が後円部です。

前方部と後円部の接続部に「造出し」と呼ばれる平らな部分があり、様々な形の埴輪が並べられていました。

造出しに並べられた埴輪（宝塚1号墳）
写真提供：松阪市教育委員会

埴輪の中でも船形埴輪は全長140cm、高さ94cmで、全体の形が分かるものとしては全国最大級です。

豪華な飾りがついており、大変貴重なものです。

船形埴輪（宝塚1号墳）
重要文化財
写真提供：松阪市教育委員会

御墓山古墳（伊賀市）と県内の主な古墳

御墓山古墳　国史跡

地図の丸印は、三重県の主な古墳を示しています。県内には約7,100か所もの古墳があります。

御墓山古墳は、三重県で一番大きな古墳です。前方後円墳で、全長は188mあります。県内で150mを超える古墳はこの古墳だけです。

県内の主な古墳

横穴式石室（井田川茶臼山古墳）

井田川茶臼山古墳（亀山市）

井田川茶臼山古墳では、横穴式石室の中に平たい石を組み合わせて棺をつくっていました。

棺の周りや石室の中からは、たくさんの供え物（副葬品）が見つかりました。

右は、直径21cmもある銅鏡で、大きなものです。

銅鏡（井田川茶臼山古墳）

馬具（井田川茶臼山古墳）

左は、馬に付ける飾り金具、馬具です。馬は古墳時代に朝鮮半島から伝わったと考えられています。

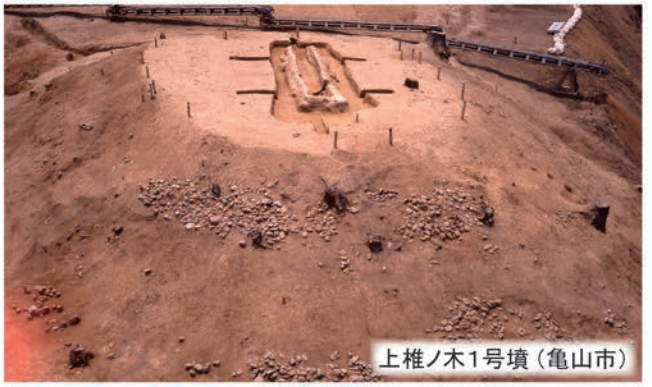
下の鉄刀は、長さ１m以上あります。古墳時代には、鉄でできた武器や農具が全国に広まりました。

鉄刀（井田川茶臼山古墳）

上椎ノ木１号墳（亀山市）

上椎ノ木１号墳は、長径22mの円墳です。古墳のほぼ中央で、木の棺を納めた細長い穴が見つかりました。

古墳には、勾玉や腕輪、鏡などが供えられていました（左下）。葬られた人の身分が高かったことが分かります。


上椎ノ木1号墳（亀山市）

勾玉や鏡などが見つかった様子（上椎ノ木1号墳）

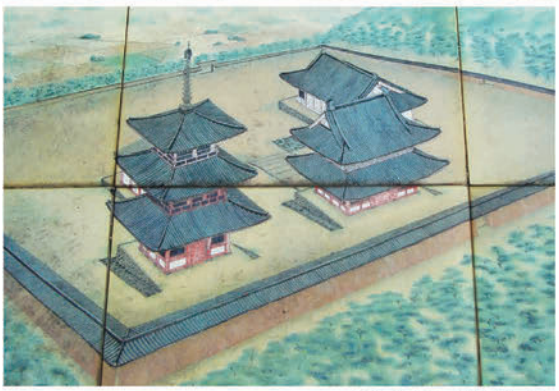
右は、上椎ノ木１号墳で見つかった勾玉や管玉、ガラス玉などのアクセサリーです。当時の人が首飾りや腕輪として身に着けていました。

勾玉などのアクセサリー（上椎ノ木1号墳）

三重の飛鳥時代 奈良時代

夏見廃寺跡（名張市）

夏見廃寺跡　国史跡
写真提供：名張市教育委員会



夏見廃寺（想定図）

塼仏（夏見廃寺跡）
写真提供：名張市教育委員会

夏見廃寺跡は、飛鳥時代に建てられた寺の跡です。想像図のように瓦屋根の立派な建物だったと考えられます。

塼仏は、お堂の中を飾ったもので、仏像を浮き彫りしたタイルです。

伊勢国分寺跡（鈴鹿市）

奈良時代、聖武天皇は、仏教の力で国を治めようとしました。そして、奈良の都平城京に東大寺を造営するとともに、全国に国分寺、国分尼寺を建てるよう命じました。

伊勢国の国分寺、国分尼寺は、鈴鹿市につくられました。伊勢国分寺の跡は、現在公園として整備されています。

伊勢国分寺跡　国史跡
写真提供：鈴鹿市考古博物館

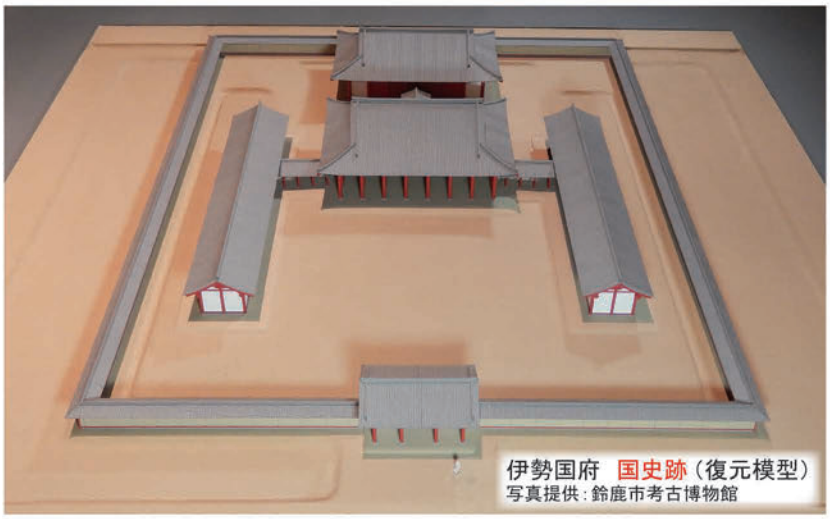
県内に国分寺が置かれたところ

奈良時代の三重県は、伊勢国、志摩国、伊賀国と紀伊国の一部に分かれていました。県内には、伊勢国分寺、志摩国分寺、伊賀国分寺の３つの国分寺が置かれました（ 印）。

紀伊国分寺は、今の和歌山県紀の川市に置かれていました。

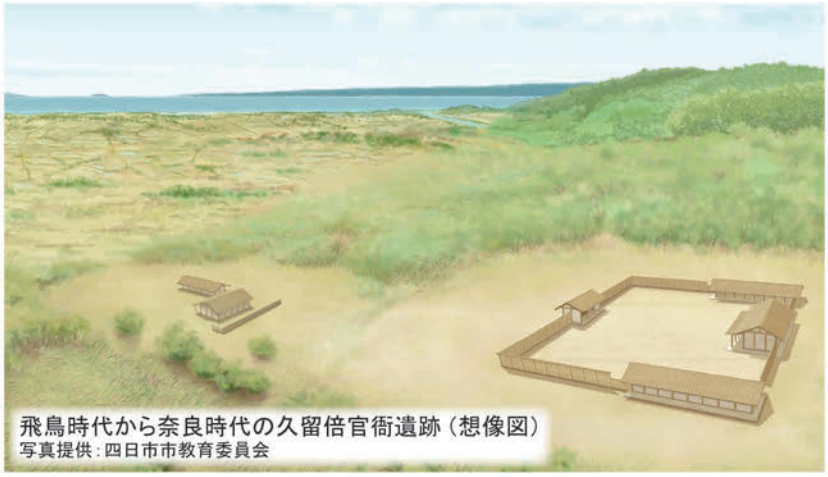
伊勢国府跡（鈴鹿市）

倒れて見つかった瓦（伊勢国府跡）
写真提供：鈴鹿市考古博物館


伊勢国府　国史跡（復元模型）
写真提供：鈴鹿市考古博物館

奈良時代、国は地方を治める役所として、全国に国府をつくりました。伊勢国府は現在の鈴鹿市に置かれました。復元模型のように立派な建物でした。国府周辺からは、屋根瓦が倒れた状態で見つかりました。

久留倍官衙遺跡（四日市市）

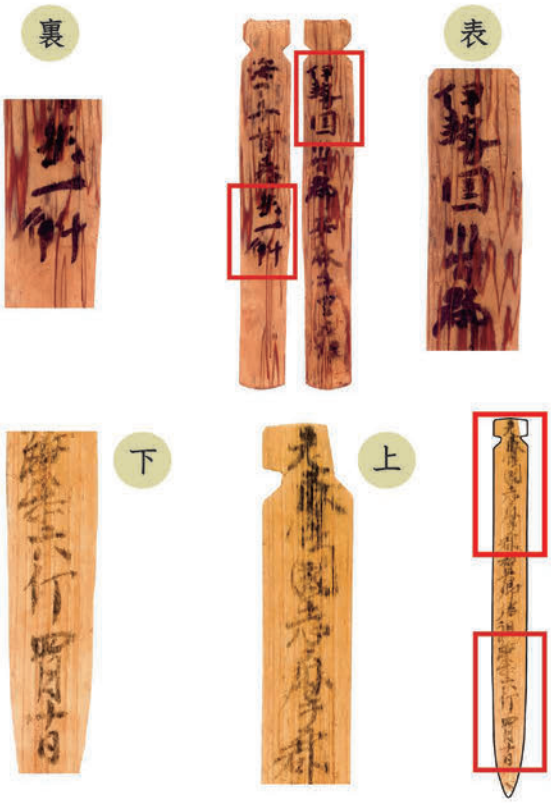

飛鳥時代から奈良時代の久留倍官衙遺跡（想像図）
写真提供：四日市市教育委員会

久留倍官衙遺跡　国史跡
写真提供：四日市市教育委員会

税を納める倉の跡と倉（想像図）
写真提供：四日市市教育委員会

官衙というのは、国の役所のことです。久留倍官衙遺跡は郡を治める場所であったと考えられています。

たくさんの柱で支えられた建物の跡が何棟も見つかりました（右）。これは、税として納められた米を入れる倉であったと考えられます。



木簡
写真提供：奈良文化財研究所

木簡

飛鳥時代から奈良時代、都には全国各地から特産品や米が税として運ばれました。荷物には、どこから何を送るのかなどを記した木の札が付けられていました。これを木簡といいます。

左上の木簡には表に「伊勢国川勾郡（現在の鈴鹿市の一部）」、裏に「米一斛（約81リットル）」、左下の木簡には上の方に「志摩国志摩郡」、下の方に「海藻（わかめ）六斤（約4kg）四月十日」と書かれています。

木簡を付けた荷物を運ぶ様子（想像）

三重の平安時代

斎宮跡（明和町）

復元された平安時代の建物（斎宮跡）国史跡
写真提供：斎宮歴史博物館

斎宮跡は、斎王が暮らした宮殿や役所の跡です。道路で区画された中に立派な建物がたくさん並んでいました。

復元された建物は、斎宮の役所の中心となる建物です。ここで、斎宮の重要な儀式を行っていました。

斎王（復元模型）
写真提供：斎宮歴史博物館

斎宮跡復元模型
写真提供：斎宮歴史博物館

斎宮が置かれていた平安時代の貴族の女性たちは、十二単を着ていました。

朝見遺跡（松阪市）

朝見遺跡でも、平安時代の人々が暮らしていた跡が見つかりました。当時の建物は、久留倍官衙遺跡の倉のように、地面に掘った穴に柱を立てる掘立柱建物です。

朝見遺跡に住んでいた人たちは、水田をつくり、地域の開発をしていたと考えられます。

掘立柱建物（朝見遺跡）

平安時代の朝見遺跡（想像図）

見つかった貴重な品々
（朝見遺跡、堀町遺跡）

建物の跡やその近くからは、青銅の鏡や中国から輸入された陶磁器、文字が書かれた土器など、貴重な品々が見つかりました。